

BUDŌ

NEWS

今月のニュース

第45回日本古武道演武大会



令和3年度全国都道府県立武道館協議会 事務担当者会議



25流派が伝統の技を披露



大東流合気柔術

第45回日本古武道演武大会

日本武道館で3年ぶりの開催

第45回日本古武道演武大会（主催 日本武道館、日本古武道協会）が2月6日、日本武道館において無観客で開催された。一昨年は日本武道館の増改修工事のため東京武道館で開催され、昨年はコロナ禍のため中止された。そのため日本武道館では3年ぶりの開催となった。

◇

午前10時30分より開会式が行われた。初めに日本古武道協会常任理事の吉川英夫日本武道館理事・事務局長が開会を宣言。国歌清聴に続き、高村正彦日本武道館会長・日本古武道協会会長が主催者挨拶に立った。

「日本の古武道は、武技の修練による心身の鍛錬はもちろん、武士道の伝統に由来する勇氣、礼節、惻隱の情などを養う人間形成の道として、現代武道の源流をなすものであります。平成が（中学校武道必修化をはじめとした）現代武道復活の時代であったとすれば、令和の時代は古武



内田康介日本古武道協会理事・事務局長



吉川英夫日本武道館理事・事務局長 日本古武道協会常任理事



臼井日出男日本武道館理事長 日本古武道協会理事長



高村正彦日本武道館会長 日本古武道協会会長



大会初の無観客で実施された



功労者表彰を受ける飯島文夫気楽流柔術第十九第宗家（右）

道が日本国民に広く評価され、日本の誇るべき文化として尊敬される時代になりたいと考えています。本日の大会が大成となるよう、皆様方のご健闘を心からお祈りいたします」

続いて臼井日出男日本武道館理事長・日本古武道協会理事長が挨拶した。

「3年ぶりに日本武道館で行う本日の大会は、観客を入れずに開催いたします。例えば、各流派が実戦の場において活躍していた頃、技術は門外不出、一子相伝であり、人知れず稽古をしていたと聞いています。その意味では（無観客とした）今年も原点に戻ったとも申せましょう。本日は稽古の成果を遺憾なく発揮されることを期待しております」

最後に来賓紹介と末松信介文部科学大臣の祝電が披露され、開会式は終了した。

引き続き、古武道の保存・振興に長年寄与した令和3年度の古武道功労者の表彰式が行われた。高村正彦会長から飯島文夫気楽流柔術第十九第宗家と小林強心形刀流剣術代表（代理）に表彰状と古武道功労章が授与された。（130・131ページに喜びの声を掲載）

演武は午前11時にスタート。小笠原流弓馬術の百々手式の儀式による演武を皮切りに、25流派が現代に継承されてきた伝統の技を次々と披露した。

兵法二天一流剣術は、加治屋孝則第十二代宗家が二刀による見事な太刀さばきを披露。加治屋宗家は「日々の稽古、毎日の鍛錬が重要であり、鍛錬を通して心身ともに健康を維持できると思っています」と語った。

柳生新陰流兵法剣術は、三学田之太刀、試合勢法、燕飛之太刀の三つの型を披露。柳生耕一厳信第二十二世宗家は「演武大会は、古武道が日本の伝統文化の一つであるということと現代の人々に知ってもらい、皆さんと一緒にこの文化を次の世代に伝えていくために、非常に意義のある大会だと思えます」と大会の意義を熱く語った。

演武納めの陽流砲術は、ありあけ、座うちはなしの二つの型を披露。大筒が火を噴き、武道館内に爆音が響き渡った。館内に硝煙が立ち込める中、内田康介日本古武道協会理事・事務局長が閉会を宣言し、大会は盛會裏に終了した。



好評発売中

武道の礼法

小笠原清忠 (弓馬術礼法小笠原教場) 著

相手に誠心が響く礼法を小笠原流礼法宗家が直々に指南する、武道関係者必読の一書。

武道の礼法

四六判・上製・278頁

◎ご注文・お問い合わせ◎

日本武道館 月刊「武道」編集部
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
TEL 03-3216-5147 FAX 03-3216-5158
<http://www.nipponbudokan.or.jp>



関口流抜刀術



無比無敵流杖術



荒木流拳法



氣楽流柔術



本體楊心流柔術



柳生心眼流甲冑兵法



根岸流手裏流剣術



柳生新陰流兵法剣術



北辰一刀流剣術

出場流派・演武者一覧（演武順）

- ①小笠原流弓馬術
小笠原清忠、小笠原清基、鎌形佐知夫、玉川智、田丸達男、佐藤明、町田和海、安達歩、林厚成、宮崎里美、野口瑞穂
- ②諸貫流和
高橋厚吉、熊谷弘志、佐藤智之、主濱泰晴、宮原博光
- ③溝口派一刀流剣術
長沼悟詮、星充
- ④天然理心流剣術
平井正人、常田貞行、小林恵子、松本賢司、平本輝彦、須田英宏、大泉雄都
- ⑤澁川一流柔術
森本邦生、林大介、堂元慎介、鈴木亨昇、松田淳至
- ⑥田宮流居合術
妻木達夫、小野信義、石川定、吉池映治、高橋学、三宅文正
- ⑦示現流兵法剣術
東郷重賢、藤村亨、高橋幸司、デユルソ・アンリ
- ⑧関口新心流柔術
関口芳夫、山中聡、関口正太郎、北口隆、福岡雅巳
- ⑨竹生島流棒術
松浦寛澄、松浦利英、橋口秀雄、ミヒヤエル・ラインハート
- ⑩兵法二天一流剣術
加治屋孝則、月森慎悟
- ⑪根岸流手裏剣術
早坂義文、池永泰雄、バーバー出人、渡辺浩、伊藤貴徳
- ⑫氣樂流柔術
飯島文夫、川島輝之、反町明大、大塚良太郎、船田清
- ⑬柳生新陰流兵法剣術
柳生耕一、嚴信、星川宣禎、竹内孝幸、瀬上俊顕、寺田裕昭
- ⑭北辰一刀流剣術
兼子勝善、桐原英夫
- ⑮柳生心眼流甲冑兵法
星國雄、浅野篤、小原良太
- ⑯本體楊心流柔術
井上恭一、宗教、大賀唯至、時岡アヤ子、日野好和
- ⑰関口流抜刀術
松岡秀樹、中山洋一、林憲一、上原征二
- ⑱荒木流拳法
菊池邦光、菊池京一、西川二郎、細野桂一、鈴木荒一、鈴木崇史
- ⑲大東流合気柔術
近藤昌之、白山秀遠、トゥルーデル・マーク、河野純一、滝口太士、味岡功磨
- ⑳無比無敵流杖術
根本憲一、唯之、谷啓一、村木浩治、沢幡伸男
- ㉑天真正伝香取神道流剣術
京増重利、荒野祥司、櫻井俊也
- ㉒無雙直傳英信流居合術
関口高明、尾形明夫、小島恵子、中野園子、中田博久、山崎寛郎、尾上政人、竹内香織
- ㉓天神真楊流柔術
柴田孝一、柴田俊充、松浦富士雄、鷲尾勉、有沢誠、阿部岳春、今野賢太、安部智恵
- ㉔鞍馬流剣術
柴田章雄、柴田彩水、柴田雄登、吉田稯寛、松井康一、渡辺良雄
- ㉕陽流砲術
尾上城由江、藤川繁昌
(以上25流派、敬称略)



無雙直傳英信流居合術



天真正伝香取神道流剣術



天神真楊流柔術



鞍馬流剣術

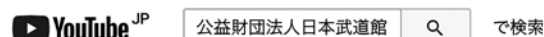


陽流砲術

YouTubeで配信

本大会の模様は、動画配信サイト
YouTubeの「公式」公益財団
法人日本武道館チャンネルでライ
ブ配信され、視聴回数は合計1万3
千件に上りました(2月15日現在)。
また、本大会の模様に加え、出場
者のインタビューを交えた動画を同
チャンネルで公開する予定です。ス
マートフォンでの視聴は、左のQ
Rコードを読み込んでください。

▶パソコンで視聴される方は



▶スマートフォンで視聴される方は



<https://www.youtube.com/channel/UCe3FE8c-lETgt4Z8xsxGRg/>
featured

地方武道館の有効活用・健全運営めざし 各都道府県立武道館が意見交換

令和3年度 全国都道府県立武道館協議会 事務担当者会議



全国の武道館の現状などが報告された全体会

令和3年度全国都道府県立武道館協議会（全武協）事務担当者会議が1月17・18日、日本武道館で開催された。コロナ禍のため、参加者は例年より少なかったものの、全武協に加盟する全国の武道館16館の17名が出席、活発な意見交換が行われた。

この会議は、全武協の活動や武道施設の管理・運営、ならびに中学校武道必修化について広く意見交換を行い、全国的な武道の普及・振興に資することを目的に、3年に1度開催されている。

会議は1日目に基調講演、全体会（全武協の事業などについての概要説明）、分科会（少人数のグループに分けての情報交換会）、日本武道館の施設見学、2日目は分科会報告などが実施された。

■1日目（1月17日）

はじめに、吉川英夫日本武道館理事・事務局長が開会挨拶を述べ、次に出席者全員の紹介を行った。

●基調講演

吉川理事・事務局長が「武道で日本を元気にしよう―加盟52館が相互

に連携・協力し、武道を通じて地域の活性化と、強く、逞しい青少年の育成を―」をテーマに講演した。同理事はまず、武道の良さ・魅力について、宮本武蔵、嘉納治五郎師範といった歴史上の人物や柳生新陰流の家訓「柳生家憲」の名言を用いながら説明。また、武道の国際的な広まりについて言及した上で、昨夏の東京五輪・パラピックで改めて武道の魅力が世界に発信されたことを述べた。

さらに日本武道館の取り組みや役割、全武協の役割、中学校武道必修化の現状などを説明。「現在、コロナの影響で地域社会武道指導者研修会や地方青少年武道錬成大会の中止が相次いでいますが、これまでの参加者が開催の復活を待っています。また、武道ツーリズムも徐々に再開してきています。我々が協力しながら武道の魅力を伝えていきましよう」と述べ、最後に「武道の理念」を読み上げ、講演は終了した。

●全体会

篠寄浩之日本武道館振興部副参事・普及課長が全武協の概要について説明。都道府県内の武道館協議会

（公立武道館協議会）と都道府県武道協議会の設置状況、そして全武協の発足と歴史、予算、日本武道館との共催事業として行う地域社会武道指導者研修会・地方青少年武道錬成大会の実施概要や事務・経費など、事務担当者の実務に沿った話がなされた。

●分科会（1日目）

参加者主体で行われる1日目の分科会が行われた。加盟館の武道施設・設備の内容ごとにA～Dの4班（1班3～6名）に分かれ、日本武

道館職員の司会で進められた。

それぞれの班では、(1)全武協共催事業（地域社会武道指導者研修会・地方青少年武道錬成大会）について、(2)日本武道館として実施している武道普及・振興施策について、(3)運営面（施設の貸し出し、サービスなど）について、(4)施設・設備の管理面について、(5)指定管理者制度について、(6)その他（主にコロナ対策）、の6項目について、参加者たちが現状や課題を報告した。

●施設見学

参加者全員で日本武道館の施設見学を行った。今回は増改修工事によって新しく建てられた中道棟や内装を一新した大道場を見て回った。参加者たちは職員の説明に熱心に耳を傾け、質問したり、写真を撮ったりしながら見学した。

■2日目（1月18日）

●分科会（2日目）

2日目は、前日に引き続き分科会が行われた。

●分科会報告

分科会の終了後、全体の質疑応答に移った。その後、各班を代表して

A班 櫻庭知基氏（青森県武道館）、B班・日出山亮太氏（愛媛県武道館）、C班・久保木剛氏（宮城県第二総合運動場）、D班・坂本聖道氏（福岡県立スポーツ科学情報センター）が、それぞれの班で行われた話し合いの概要を紹介した。

●まとめ・閉会挨拶

まとめとして参加者のうち代表者5名が感想を述べた。

- ・本会議に参加して他の加盟館も同じ悩みを抱えていることが分かり、貴重な経験になった（新潟）
- ・抱えていた課題について共に考えていただき、よかった（長野）
- ・他の加盟館と情報共有ができ、今後の管理・運営に反映させていきたい（神奈川・横浜）

- ・来年に閉館が決定しているが、全武協では47都道府県の協議会が揃ったため、なるべく空白の期間を置かないよう、新たな施設の実現に向けて努力したい（山形）

- ・コロナ禍の影響で参加者数の減少があったものの、通常より濃密な意見交換ができた（高知）

最後に鈴木達也日本武道館振興部長が閉会挨拶をし、会議は終了した。



日本武道館内の施設を見学する参加者



吉川理事によるスライドを使っの基調講演

全国都道府県立武道館協議会事務担当者会議参加者

(敬称略)

	都道府県名	加盟館（所属）	出席者
1	青森県	青森県武道館	櫻庭 知基
2	宮城県	宮城県第二総合運動場	久保木 剛
3	秋田県	秋田県立武道館	加藤 功一
4	山形県	山形県武道館	工藤 正広
5	栃木県	栃木県総合運動公園武道館（ユウケイ武道館）	木村 悠生
6	千葉県	千葉県総合スポーツセンター武道館	柴田 勝次
7	東京都	東京武道館	石崎 万理
8	神奈川県	シンコースポーツ神奈川県立武道館	鈴木 博
9	神奈川県	横浜武道館	大山 圭子
10	神奈川県	横浜武道館	小湊 悠維
11	新潟県	謙信公武道館（新潟県立武道館）	丸山 兼矢
12	長野県	長野県立武道館	内田 賢悟
13	滋賀県	滋賀県立体育館・武道館管理センター	八木 克潔
14	兵庫県	兵庫県立武道館	小林 典正
15	愛媛県	愛媛県武道館	日出山亮太
16	高知県	高知県立武道館	近澤 顕義
17	福岡県	福岡県立スポーツ科学情報センター	坂本 聖道



分科会での意見交換の様子

分科会での主な協議内容

- ▼A班（青森県武道館、秋田県立武道館、千葉県総合スポーツセンター武道館）
- （課題）以前、公立武道館協議会の助成金については条件に当てはまらずに申請できないことがあった。
- （解決策）武道振興のためにも積極的に助成金を申請した方が良くと思う。武道祭を開催し、9武道の披露などをしてはどうか。
- （課題）コロナ禍が2年続き、武道大会の参加者が戻ってくるのかが心配。また、利用者が入らないと武道館自体が閉鎖状態になってしまふ。
- （解決策）行政各所にも相談を重ねたい。
- （感想）コロナ禍で受けたダメージが大きいが、以前の状態に戻るよう日本武道館とも協力して武道事業などに尽力していきたい。
- ▼B班（東京武道館、謙信公武道館、滋賀県立体育館・武道館管理センター、愛媛県武道館）
- （課題）一番の課題は、武道事業を
- 開催するにあたり、参加者の確保が厳しいことである。広報の充実、促進が重要になると考えている。
- （解決策）広報活動として4館ともSNSを使用しており、スピード感を持ちつつ人目を引く内容（武道教室や行事の名前の工夫など）を発信して参加者増につなげたい。
- （感想）加盟館だけでなく地域の道場や県内の各武道連盟と協力し、武道の競技人口を増やせるように積極的に事業を行いたい。
- ▼C班（宮城県第二総合運動場、栃木県総合運動公園武道館、シンコースポーツ神奈川県立武道館、高知県立武道館）
- （課題）老朽化対策として改修工事を行う武道館が多くあるが、コロナの影響で資材が入らず、工事期間が伸びてしまう問題が起きている。
- （解決策）新しい施設に一新している加盟館と、改修があまり進んでいない加盟館の間に設備の差が生
- じていると感じた。互いの良い部分を取り入れることでより良い武道館運営ができると思われる。
- （感想）バリアフリー化や災害時の避難施設としての改修についても考えていきたい。
- ▼D班（山形県武道館、横浜武道館、長野県立武道館、兵庫県立武道館、福岡県立スポーツ科学情報センター）
- （課題）武道の普及・振興事業のためには子どもを対象にした教室や体験事業が重要になると考えられる。
- （解決策）対象を小学生に絞ったり、1クールを4回までとすること、1回の参加料金を低額に設定するなどして、気軽に教室に通えるように工夫する。
- （課題）人気の種目は定員をオーバーすることもあるが、反対に人が集まらなくて実施が難しい種目もある。
- （解決策）地域でチラシを作成・配布したり、SNSを活用して子どもに興味を引くように工夫する。

日本武道館の単行本

剣道の文化誌 明治大学教授 長尾 進 著
四六判・上製・480項・定価2,640円

本書では剣道の持つ文化としての多様な面を、時代を追いながら、わかりやすく紹介する。剣道を愛好する方には剣道を改めて見直すきっかけとして、剣道をあまりご存知ない方には剣道という日本文化の成り立ちを知るガイドとして、ぜひ一読を。

剣道 その歴史と技法 埼玉大学名誉教授 大保本輝雄 著
四六判・上製・516項・定価2,640円

本書は戦国末期から江戸時代初期を起点に、今日に至るまでの剣道の歴史的発展の経緯を示した。戦国期以前の剣術の有り様を認識した上で改めて各時代の流れに沿った剣道史を考えてみたいという筆者の思いを実現すべく、連載終了後5年のときを経てついに単行本化。

合気道 その歴史と技法 合気道道主 植芝守央 著
四六判・上製・362項・定価2,640円

世界140の国と地域、国内2,400の道場・団体に愛好される合気道。開祖・植芝盛平翁の生涯、植芝吉祥丸二代道主による普及・振興、さらなる発展に繋げた現道主による取り組み。その歴史の中で培われ伝え続けてこられた合気道の理念、それを体現する稽古法、基本的な技法の解説……合気道の全てを網羅した決定版。

空手道 その歴史と技法 小山正辰・和田光二・嘉手苅徹 著
四六判・上製・548項・定価2,640円

空手は沖縄で発祥し、日本本土に伝承され、今や世界のKARATEとなった。その歴史と技法を、那覇系剛柔流の小山正辰氏、首里系松濤館の和田光二氏、沖縄空手研究の第一人者である嘉手苅徹氏の共同執筆で体系的に紐解く。嘉手苅氏が発見した剛柔流の開祖・宮城長雄の最新の事実、小山・和田の両世界チャンピオンのエピソードなども満載。空手の真髄に迫る白鳥の一冊。

マンガ・日本武道風土記 漫画家・別府大学客員教授 田代しんたろう 著
B5判・248項・定価1,100円

全国の「武道ゆかりの地」を実際に訪ねて、ペンとスケッチブックを片手に徹底取材。地元関係者や施設の学芸員とのやりとり、その土地の成り立ちをわかりやすくマンガで紹介。多数の資料をもとに丹念に描いた当時の風景も魅力の一つ。マンガの世界で日本各地をめぐるみては。

死ぬまで弓道 弓道教士七段 小牧佳世 著
四六判・上製・342頁・定価2,640円

競技中に急性大動脈解離に倒れた筆者は奇跡的な生還を果たす。その8カ月後に弓道を再開し、わずか2年後に皇后盃で十射皆中、優勝を果たした。本書では激動の自伝を記し、弓のあり方や「早気」など弓道家の誰もが陥る課題などを模索する。死の淵を覗き、現在も全身全霊で弓を引き続ける筆者だからこそ記せた弓道伝記かつエッセイ

学校武道の歴史を辿る 筑波大学名誉教授 藤堂良明 著
四六判・上製・354項・定価2,640円

明治維新を迎え、武術は衰退したが、近代化の過程で武道が「人間形成の道」として学校制度の中に組み込まれ、発展した。太平洋戦争後に武道は全面禁止となるが、それを乗り越え、「格技」として復活。平成24年度には「中学校武道必修化」が実現した。学校武道の歴史を丹念に辿り、今後のあり方を探る。

ご注文・お問い合わせ
(公財)日本武道館 月刊「武道」編集部
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
TEL 03-3216-5147 FAX 03-3216-5158
<https://www.nipponbudokan.or.jp>